

農的デザイン研究所代表

蔦谷栄一氏

米軍基地の辺野古移設を巡る県民投票を翌々日に控える沖縄の空気を吸って来た。移設反対を呼び掛ける市民の横を、街宣車が通り過ぎる。

南大東島に足を運んだ帰り、那覇市に住む友人

# 歩

と再会するとともに、平和への祈りを歌った「喜瀬武原(きせんばる)」を作詞・作曲した海勢頭(うみせど) 豊が経営するエル・パピリオンをのぞいてみるのが目的であった。残念ながら、店は既に閉められており訪問はかなわなかった。

その海勢頭豊であるが、シンガー・ソングライターであるとともに、

## 「日本の源は沖縄から」説 協同の精神が息づく

『真振MABUI』『龍宮神黙示録』『琉球文明』の発見』(いずれも藤原書店)の著書も出している。歴史家・宗教学家でもある。今回沖縄に出掛けるに当たって、その著作に一通り目を通した。彼の一貫したテーマは、日本人の平和を求め、今、改めて日本人は沖縄に思いを寄せるべきだとする。彼の歴史観の骨格は、若き日に沖縄で絶対平和を学んだ卑弥呼は近畿に戻って邪馬台国を樹立して大和を平定。卑弥呼亡き後、崇神天皇によって軍事政権に置き換わったという。こうした歴史を立証するのが、沖縄に豊宮に残る卑弥呼や邪馬台国に関する伝説や琉球歌だとする。

せっかくなので機会でもあり、こうした歴史観に大きな影響を与えたであろう、海勢頭豊が生まれた平安座(へんざ)島にレンタカーで走ってみた。

那覇市から北東に、普天間市などを横切って約1時間半、東海岸に浮かぶ。本島と道路でつながり、その先の宮城島、伊計島まで足をのぼした。伊計島の海岸は息をのむほどの絶景。立ち去りたい思いにかられ、海岸で昼食をすべく出会ったのが共同売店だ。5人の主婦がタイムシェアしながら朝8時から夜8時まで開いているとかで、日用品が並び、壁には島の歴史を記すたぐさんの写真が貼られていた。

沖縄の協同活動と云えば共同売店が取り上げられるが、帰りの機中で友人から土産にもらった本を読むと、本土の頼母子(たのもし) 講や無尽と同様の相互扶助的な金融「ムエー」が今でも盛んだとある。本土の相互扶助の精神・取り組みも、ひよっとして沖縄に源があるのでは、との思いが頭をよぎった。

(次回は20日付)